

9 本州中央部広域交流圏の形成について

【国土交通省、財務省】

《提案・要望事項》

二つの新幹線（北陸、リニア中央）や高規格幹線道路などにより、東日本と西日本、太平洋と日本海とを結ぶ「本州中央部広域交流圏」を形成し、移住・交流人口の拡大や産業振興による地域の活性化を実現するため、以下のとおり要望する。

- 1 リニア中央新幹線の整備効果を広く県内に波及させるため、関連する道路などの基盤整備について、国による整備や地方負担に対する財政支援を講じること。特に、国道153号伊駒アルプスロードは、権限代行による整備を進めること。また、国道153号の指定区間編入を検討すること。
- 2 本州中央部広域交流圏の根幹となる、中部横断・中部縦貫・三遠南信自動車道の早期整備を図ること。
- 3 直轄道路事業を着実に進めるとともに、県が実施する松本糸魚川連絡道路や国道143号青木峠、木曾川右岸道路などについて、整備推進のために必要な予算を確保すること。
- 4 重要物流道路の指定にあたっては地方の意見を十分踏まえるとともに、当該道路及びその代替・補完路となる地方管理道路の機能強化及び整備促進のための支援を行うこと。
- 5 「スーパー・メガリージョン構想」を早期に策定するとともに、同構想に基づくリニア中間駅を核とした地域づくりなどの取組を積極的に支援すること。
- 6 リニアの早期整備に向けて、建設工事に伴う住民との調整や市町村が行う独自の施策に対する財政措置を行うこと。

《本州中央部広域交流圏について》

人口減少社会が到来する中において、高速交通ネットワークの整備効果を活用し、移住・交流人口の拡大や産業の振興による地域の活性化を実現するため、北陸・リニア中央の二つ新幹線と高速道路網を基軸とした交流ネットワークを最大限に活用する「本州中央部広域交流圏」を形成し、本州の真ん中に位置する長野県の地理的な優位性を発揮することで、本県を中心とした、東日本と西日本、太平洋と日本海とを結ぶ大規模な流動を創出することを目指している。



